

# 斑点米カメムシ類情報第1号

平成30年7月2日  
愛知県農業総合試験場  
環境基盤研究部病害虫防除室

斑点米カメムシ類は、イネ科雑草の子実を餌に増殖するので、除草を徹底し、出穂前後から穂揃期には薬剤防除を実施しましょう。

## 1 発生状況

6月下旬に県内106ほ場で行った水田周辺の畦畔雑草における20回すくい取り調査では、斑点米カメムシ類の捕獲数は9.3頭（平年 10.2頭）で平年並となっています。

予察灯における誘殺数は5月下旬から6月上旬にかけて増加し始め、東浦町、長久手市、西尾市では平年並、大口町、弥富市、豊川市は少ない状況です（図）。

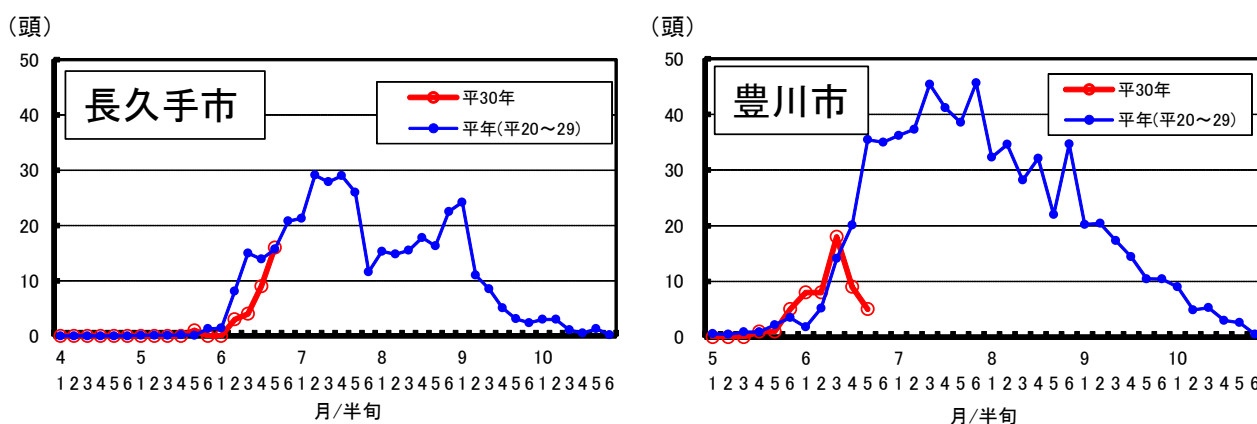


図 予察灯における斑点米カメムシ類の誘殺数

## 2 防除対策

斑点米カメムシ類は、主に水田畦畔などに生えるイネ科雑草の子実を餌に増殖するので、除草を徹底しましょう。また、水田内で穂をつけたヒエ類なども発生を助長するので除去しましょう。

畦畔や水田内をよく観察し、カメムシ類の発生が多い時は表を参考にして、出穂前後から穂揃期に薬剤防除を実施し、その後も発生が多い場合は7日から10日後に再度防除しましょう。

使用する薬剤により防除時期が異なるので注意しましょう。

表 斑点米カメムシ類に対する主な防除薬剤

薬剤名	使用時期
スミチオン乳剤	収穫21日前まで
トレボンEW	収穫14日前まで
キラップフロアブル	収穫14日前まで
キラップ粒剤	収穫14日前まで
スタークル／アルバリン顆粒水溶剤	収穫7日前まで
スタークル液剤10	収穫7日前まで
スタークル／アルバリン粒剤	収穫7日前まで
スタークル豆つぶ	収穫7日前まで

農薬の散布に当たっては、ラベルの表示事項を守るとともに、他の作物や周辺環境への飛散防止に努めましょう。